

もどかしさを禁じ得ません。とはいえ地道な努力をたゆまず続けて を見据え、あきらめずに植え続けていこうと思っています。 いくことが重要で、目先の変化はわずかであっても、十年二十年先 大きいので、頑張っているつもりでも成果はそれほど感じられず、 しています。着想からすでに六年の歳月が過ぎましたが、山は広く はあじさい寺を目指し、今春も約千五百株ほどのあじさいを植えま 早いもので、今年もお盆の季節がやってまいりました。 参詣の皆様に四季の移ろいを感じていただける花の寺を目指 またさくら五十本、 もみじ二十本を植え、散策道路や山を整 真光寺で

して、 余裕のない中、そのときどきにできる支援を細々と続けてまいりま していた東京のお寺で開催した国際交流イベントでの協同を端緒と と関わりを持ちはじめたのは、およそ三十年前のことでした。勤務 現在専務理事をつとめておりますシャンティ国際ボランティア会 袖ケ浦市へ移ってから今に至るまで、時間的にも経済的にも

ださり、子どもたちは日本の家庭のあたたかな雰囲気に包まれて一 会長をつとめていた私は、受け入れ側の代表でした。幸い県内各地 ちを招いて開催した「アジア子ども文化祭」の思い出です。来日し く方たちが工面してくださったチケットが提供され、念願だった 夜を過ごすことができました。そして翌日、ディズニーランドで働 の有志の寺院とそのお檀家さんがホームステイを快くお引き受けく ご招待というプログラムを組みました。当時千葉県曹洞宗青年会の た子どもたちは日本各地を訪問しました。千葉においては成田市の 「夢の国」での一日が実現しました。 般家庭にホームステイをして、次の日は東京ディズニーランドに そんな中で特に忘れがたいのは、シャンティがアジアの子どもた

を行いましたが、 昨年創立三十五周年を迎えたシャンティは、さまざまな記念事業 その一環としてラオスのスラム地区で生まれ、

> い、所蔵されていた本をすべて読み尽くしてしまったそうです。シャさんは、ひまを見つけてはシャンティの援助で設立された図書館に通 きし、記念講演会を開催しました。貧困にあえぎながら毎日朝早くか 学んでとても上手に踊ったり歌ったりできるようになりました。 ら夜遅くまで働くお母さんの仕事を助け、 在はラオス国営放送のキャスターとして活躍するスニターさんをお 下、民族芸能を教える会も催していましたが、スニターさんは熱心に ンティの図書館では、自国の文化に誇りを持ってほしいという願いの に通うこともままならない子ども時代、勉強が大好きだったスニター 兄弟たちの面倒を見て学校

した。 されたことがスニターさんのよき思い出になっているようで、十七年その努力が実を結び、「アジア子ども文化祭」のラオス代表に選出 たちの保護活動に尽力されています。私たちがまいた小さな善意の種 もの家」を創設。キャスターをつとめる一方で、両親のいない子ども ラオス人の私たちもやらなければ」という想いをもって「ラオス子ど が育ち、 本の人たちがラオスの子どもたちのことを思ってくれているのだから 前に来日されたときの写真も紹介されました。スニターさんは、 花を咲かせていることを、思いがけず実感できた記念講演で 日日

ます。まずは足下から努力を続けていくことが、何よりも大切では いでしょうか。 抜け出し、さらにラオスの子どもたちに善意の手を差し伸べておられ で図書館運営に当たる一人一人のスタッフがもたらすことができるの 地で展開しています。日本から届けられる一冊一冊の絵本、また現地 善意を受け止めて努力に努力を重ね、スニターさんは貧困の連鎖から は小さな力だったかもしれません。しかしその一つ一つにこめられた シャンティは、絵本を送る運動や図書館建設などの活動をアジア各

わ :れます。皆様の応援をぜひお願い申し上げます。 一日二ドルで労働する子どもたちは、世界中に六千万人いるともい

山内一同皆様の御参詣をお待ちしています。

合

真光寺住職

岡本和

◇春彼岸会(三月)

れぞれに、大切な亡き人へ思いを馳せました。 会会員を対象に春の彼岸会法要を厳修致しまし 三月十八日は檀信徒を、三月二十一日は縁 両日とも多くの方がご参加され、皆さんそ

は和やかな雰囲気になりました。 (かつらしんざ)さんをお招きし、落語を披露 ていただきました。とても面白いお話に会場 -八日の彼岸会法要の後は、落語家の桂伸三









◇花まつり法要・檀信徒総会

懇親の一時となりました。 花見BBQにて檀信徒一同 た。総会の後には恒例のお 業・会計報告をいたしまし た。その後、檀信徒総会を 様の誕生をお祝いしまし めにご詠歌を奉詠しお釈迦 生まれになった日です。 催。 四月八日はお釈迦様がお 住職より真光寺の事





◇団参旅行

(五月)

たしました。 きましたので、 今回の団参旅行は曹洞宗大本山永平寺を参拝 縁の会会員の林幸恵様よりご寄稿頂 五ページをご覧ください。

◇真光寺囲碁の会

が参加されており、囲碁 催いたしました。 兀 |月四日、 五日の二日間で真光寺囲碁の会を開 初心者から上級者まで様々な方

コ堀も楽しみました。 寺の山に出向き、タケノ だけでなく、 た時期でしたので、 日目はタケノコが出始め きる禅寺ならではの行事 お勤め等、 日目は交替で対局。二 今回は七名が参加。 修行も体験で 坐禅や朝の 真光



◇七日法要(四月)

あり、とても多くの方にご参加いただきました。 くつか種類があるため、今年は抽選を行いました。 祝いしました。植樹祭で墓苑に植える苗木にはい された誕生仏に甘茶をかけ、お釈迦様の誕生をお を行い、午後は花まつり法要・植樹祭を行いまし とても喜ばれていました。 今年も天候には恵まれませんでしたが、好きな場 た。ちょうど桜が見頃を迎える時期ということも 所に自分の手で樹木を植えられることに、皆さん 花まつり法要では、煌びやかな花御堂内に安置 四月の七日法要では、午前に授戒式・月例供









ガイ

はどうかと案じる。二十一

開枕

縁の会会員 林 幸恵

と情緒に浸ったのは、 気分で北陸新幹線「かがやき」に乗り込んだ一行 ーが多いことを察知し、 天気予報どおり金沢は雨。 五月十三日、 岡本住職はじめ檀信徒や縁の会会員二十六名。 二泊三日の敬虔な祈りの旅がスタート! 東京駅銀の鈴に集合し、 先ず、賑やかで気のいいメン 声高に近況報告し合う声を聞 せいぜい上野まで。 ひと安心。 永平寺参拝前の水行 修学旅. 常連参



永平寺山門にて、修行僧から説明を受けました。

永平寺の精進料理。 食事をするのも修行 止まる。 大本山永平寺 的地・曹洞宗 盛りと咲く杜 ろ歩く。 六園」をそぞ で本降りの「兼 ドさんの案内 若の青紫が映 庭園に、 美しさに足が 夕刻前、 巧まざる 今を 雨の

りと身を委ねた二十五分間の尊さ。禅寺では食事 予想は良い方に裏切られ、研修道場「吉祥(きち きる雨に佇む壮大な伽藍を前に、身が引き締まる。 道場で、 に到着。 じょう)閣」は、エアコン完備で近代的な建物だ 宿坊に入るまでは粗末な部屋を覚悟していたが、 本住職や大御さんも修行されたとのこと。降りし 道元禅師によって約七百七十年前に開かれた坐禅 食事や坐禅などは合流。坐禅では、呼吸を調えつ った(ホッ)。一行は男女別の二部屋に分かれ、 つ自分の心を解き放つ。手は印を結び、半眼。時折 (きょうさく) の音がピシッと響く。 揚げたゴマ豆腐、がんもどきなど滋味豊か 薬石(やくせき)(夕食)は作法に則り「五 修行の厳しさで知られている。 いよいよ宿泊参拝の始まり。 私には適量だが、 食物をいただけることに感謝 修行中の雲水さん 永平寺は、 引率の岡

> さん)。 建物内を巡る。 含んで鮮やかさを増した境内の緑に感嘆しつつ、 じょう)禅師にご挨拶の焼香、 私たちも道元禅師並びに二世孤雲懐奘(こうんえ 流れるように歩く様は、 に参加。二百人近い僧侶や雲水が、 三時間半経過した空腹には不足。 じき)(朝食)は、 今ここに在ることの感謝を捧げる。小食(しょう っとう) に移動し、朝課 の迎えを待つ。上席僧侶による法話の後、法堂(は ませ、寝具や身の回りを片づけ、 二日目は、三時三十分起床。 希望者は若き雲水に諸堂案内を受け、 八時、修行を終え永平寺を下山 (ちょうか) (朝のおつとめ 耳に心地よく、 ゴマ塩、 時、 続いて先祖供養。 すばやく洗面を済 修行不足を知る。 担当の雲水さん 漬物。 読経しながら 起きて (あ

目



大本山永平寺参拝記念 真光寺本山参拝団

平成30年5月13日

今回は総勢21名の旅行となりました。



この日は晴天で、素晴らしい景色でした。

う_。

お戒壇巡りでは、

暗闇の中をチームプレーで

ホテルを出発

伝言ゲームのように「極楽のお錠前」

の場所を申

飲めや歌えの

を味わう。旅の満足感を最高のお土産に、

中島古戦場や真田邸を巡り、

昼食は美味しい蕎

全員

反動もあり、

大宴会。

ワイ

ルドなお姉さ

んたちの登場

酒なし。

その

中は無言、 場のため食事 は美味しかっ

の精

進料

多く、

交じると見分けがつかないので、ツアー

雪のない台湾からの観光客が

添乗員さんから、

がそそり立つ「雪の大谷」の圧巻に見とれる。

mの室堂では、青空を背景に十数mの雪の ロープウェイを乗り継ぐ。標高二千四百五

壁

+

堤を徒歩で渡る。扇沢で迎えのバスに乗り、

でさっぱりした後は、 三十分で今宵の宿泊地、

お待ちかねの夕食。 大町温泉に到着。 標高千四百五十五mの黒部湖では、 バッジを付けるよう念を押される。

黒部ダム堰 立山を下り

はもっと派手にね~」とエー ル。 酒豪連は三次会

然と、「来年

常連さんは平

に、絶句。が、

まで行き、午前様だったとか…。

える。 ろうか。今回の旅は、夫婦で初参加。今は元気でも、 成長を自覚する喜びもあるのかなぁ。 れはしない方がいい」とか。 で相手を拘束する。「もっと運動したら?」とか「そ 昨晚の坐禅で心が開かれ、 共鳴する。 を曳き、 に向かう。 三日目は五月晴れ。 れ別れがくることは承知している。それなの 時として互いの価値観が交差し、労りの名目 鳥の声に誘われて一人、 どこからか瀬音が聞こえる。 周辺世界に一体化する感覚が心地よい。 雑木林の木洩れ日が、 高原らし 少し素直になったのだ 未熟。 ホテル傍の散策路 い清々しい朝を迎 下草に長い樹影 だから学び 静寂に心が

> が頭に触れ、 のご担当。 生が約束された。僥倖は、偶然 できたこと。善光寺は宗派を超えたお寺だが、二 し送る。 大寺が交代で勤めており、 おかげで全員が仏様と縁を結び、 副住職の美しい尼僧が手にされた数珠 功徳を分けていただく。 今回は大本願 「お数珠頂戴」 その後、 (浄土宗 Ш

沢間は、 効果か、

乗り物マニア垂涎のエリアで、 山霧が消え天気は晴天に♪。 次の

Í

I的地は

|山黒部アルペンルー

Ļ 立 山 〈

修

ル

カー&トンネルトロリーバス各二回、

高原バ ケー

さまに、 初参加の私どもを気遣ってくださったご同行の皆 真光寺の皆さま、魅惑の読経ボイスの添乗員さま 事に新幹線に乗車 結べた三日間でした。 最後になりましたが、 改めて感謝申し上げます。 ありがとうございました。 今回の旅行を企画された 皆さまと縁を



善光寺本堂を眺める皆さん。 あの中に極楽浄土の道が

P P P

里山歳時記



今年の春は厳しい寒さと例年以上の暖かい日が交互に繰り返されたせいもあり、里山では桜が一斉に花開いたように感じました。桜に限らず植物の多くは春になり暖かくなって自然と開花するという訳ではなく冬の寒さがあって初めて花を開くことがことができます。これを「休眠打破」といい、冬の間、寒さを蓄積すると植物は休眠から目覚め開花の準備を始めるというものです。そこから一定以上の温度が蓄積されると、はれて開花をするのです。昔から農家の人々が桜の開花を色々な農作業の目安とすることが多かったのは他の花よりも年によっての開花時期のズレが少なく、咲いている期間が短いため種まきに必要な季節の時計として最適だったからではないでしょうか。春を彩り人の目を楽しませてくれる桜は里にとって無くてはならない大切なパートナーだったのですね。





谷の奥でも里の桜がひっそりと、鮮やかに咲いています。

時折涼しい風が新緑の谷を抜け、作業で疲れた体を休めてくれます。



一お花見トレッキングー

里山の桜と春の自然を体験していただくの年のはお花見トレッキング。その年によってはまだ桜がにったりにまたといる。 第でなかなか良いお花見ができまいたりでなかなか良いお花見ができまりでないますが、今年は見ずにときまけがったときまけがったとも当日が満開だった、2種田で気はような珍しい桜にも出た。 とができた春の里山でした。



一畔塗りと稲苗作り一

田んぼは自然の土で出来ているので毎年手入れをしないと上手く水を溜めることが出来なくなります。参加者の方には畦に泥土を塗って水漏れや崩れを防ぐ畔塗りを体験してもらいます。今では機械を使ってやりますが、一昔前の農家さんたちは鍬で重い泥土をひたすらにペタペタしていたのかと思うと本当に頭が下がりますね。



一田植え一

里山の春の一大イベントといえば 田植えです。毎年大勢の方にご参加 いただき、たくさんの稲を植えてい ただいております。特に好評ない 田植え後の田んぼ遊び。田んぼをを 走したり、相撲をとったり、黙々と 歩き続ける子もいたりとそれぞれの 感覚で田んぼを楽しみ、泥だらけに なり、コミュニケーションをとって いるようです。

--planplanplanpla ※グイベントのご案内 🎤 applanplanplanpla

- 7月 1日(日) イトトンボの観察会
- ・8月4日~5日 (土~日) 里山の昆虫観察会 (泊)
- •9月8日(土)
- 稲刈り体験 ①
- ・9月9日(日)
- 稲刈り体験 ②
- 9月30日 (日)
- トンボの観察会

- ・10月13日 (土)
- 収穫祭 ①
- •10月14日(日)
- 収穫祭 ②
- ・10月21日(日)
- キノコの観察会と秋の収穫体験
- ・12月 1日 (土)
- 里山で年忘れ(宿泊も可)
- ※各イベントの詳細は別紙チラシをご覧ください。

里山の米作り

里山のお米完売! そして里山再生は続く…

毎年上総自然学校で作っている里山米。ありがたいこ とに今年も昨年度収穫した分が完売いたしました!日本 の原風景である里山とその自然を再生し守っていきたい という想いとともに始まった自然学校。縁あった多くの 方々に助けられ整備してきた結果、今ではお米も3t近 く収穫出来るようにまでなりました。私達は一貫して無 農薬(種子消毒以外)でお米を栽培しております。食べ てくださる方々に自然のもの、健康に良いものをという 思いから。またそれと同時に里山の生き物たちと共に生 きていきたいという思いもあります。手間を惜しまず、 先人達の育んできた文化を継承し次代に引き継ぐことで 多くのものを守り続けていくことが出来るのだ。などと 考えながら今年も美味しい米作りに励んでおります。



谷を眺め想うのは「草刈りしなきゃなぁ...」

~上総自然学校で育てているお米の紹介~

白米·玄米

日本で一番作られている「コシヒカリ」が私達の里山で育てているお米です。種子消毒以外 無農薬で、水は山からのしみ水と天水(雨水)のみを使って丁寧に育てています。一粒一粒 は不揃いですが自然の中でたくましく育ってきた味がします。

もち米

今では栽培する農家さんがほとんどいなくなってしまった幻の品種「つきみもち」。お餅にす ると甘みとコシがあり大変美味しいお餅になります。お赤飯にしたり、ご飯に混ぜて炊くだ けでももっちりした食感で美味しくいただけます。

古代米

日本の食文化の原点といわれている古代米(黒米・紫米・赤米・緑米)を甲山で育てています。 ビタミンやミネラルなどを多く含み生命力が極めて強いのが特徴です。また、それぞれのお 米の色素には特有のポリフェノールが含まれており、健康や美容にも良いとされています。

今年も新光のご予約を受付中です 能しくは別紙の建文書をご覧くだざい。





越冬のため里山にやってきます。タカの親戚なのです がとても気が弱くネズミのような小型の動物を狩りの対 象としています。カラスにいじめられることもしばしば で、里山のセンサーカメラにも止まり木でくつろいでい たところを追い出される様子が写っていました。

春になるとノスリと入れ 替わりで里山に渡ってきて 子育てをする小型の猛禽類 です。ピックィ~という特 徴的な鳴き声なので遠くに いてもすぐ分かります。田 んぼの手入れを継続してき た結果、彼らの餌となるカ エルが増えたことで里山を 営巣地に選んでくれたので しょう。最近はお寺周辺に も頻繁に現れます。





宗門儀礼について

副住職 國生徹雄

「通夜儀礼」

として、経済的な理由や、かつては自宅で行わ なったことも考えられますが、何よりも儀礼の れていた通夜・葬儀が葬儀場で営まれるように だけを行う一日葬も増えてきました。その背景 思います。さらには通夜を省き、葬儀・告別式 その意味合いも告別式に出席できない人のため るように思えてなりません。 簡素化や省略につながる大きな要因となってい 持つ本来の意義が薄れつつあることが、 の「お別れ式」的なものに変わってきたように 程度で終わる「半通夜」が大半となっています。 別れを惜しむ儀式でした。しかし最近は通夜の カュ :略化が進み、一般の弔問客を迎えて約一時間 った人たちが葬儀の前夜、亡き人に付き添い 夜は、もともと家族・親族等、故人と親し 通夜の

たいと思います。源や通夜で唱えるお経をヒントとして考えてみ源や通夜で唱えるお経をヒントとして考えてみとはいったい何なのか、仏教における通夜の起このような今日の状況を踏まえ、通夜の意義

仏教徒としての決まりごとを守り、悟りに向か経には、自分の滅後も教えをよりどころとして入滅(逝去)されました。このときの様子を記月の夜、北インドのクシナーラというところでお釈迦様は、紀元前三八三年二月十五日の満

その途中もまったく実感はありませんでした。

迦様の言葉が残されています。って精進するよう弟子たちに言い残されたお釈

での起源であるといわれています。 ところがお釈迦様のまわりに集まった人々は、ただおろおろと嘆き悲しむばかりだったとは、ただおろおろと嘆き悲しむばかりだったとは、ただおろおろと嘆きましむばかりだったとと ところがお釈迦様のまわりに集まった人々

を物語っているのではないかと思うのです。た時の様子や遺言を記したお経に耳を傾けることで現前の故人にお釈迦様の姿を重ね合わせ、とで現前の故人にお釈迦様の姿を重ね合わせ、とがらを思い起こすという、通夜の本来的な意義がらを思い起こすという、通夜の本来的な意義を物語っているのではないかと思うのです。

私の母方の祖父のもとへ向かいましたが、りました。十年前から住職は退いていましたが、りました。十年前から住職は退いていましたが、に二回ぐらい祖父のお寺に遊びに行っては可愛に二回ぐらい祖父のお寺に遊びに行っては可愛に二回ぐらい祖父のお寺に遊びに行っては可愛に行ったり、半年ほど一緒に生活していろいろなことを教えていただいたこともありました。そんな祖父が病気で亡くなったという知らせをそんな祖父が病気で亡くなったという知らせをわから電話で聞いたときには、にわかには信じられない気持ちでした。当時住んでいた横浜からすぐに福島の祖父のもとへ向かいましたが、私の母方の祖父は五年前に八十一歳で亡くなりました。

然と涙が溢れました。大好きだった祖父への思いがこみ上げてきて、自う現実を受け止めたのです。その瞬間、心の中にう寒を見て、私はようやく祖父が亡くなったといお寺に到着し、本堂に入って静かに横たわっていお

とても有意義なものであったと思います。とても有意義なものであったと思います。相父の亡骸と対面した時はただただ悲しいだた。祖父の亡骸と対面した時はただただ悲しいだた。祖父の亡骸と対面した時はただただ悲しいだれでしたが、叔父と語り合うことで自分自身の心も整理され、悲しみが何となく和らいだような気を整理され、悲しみが何となく和らいだような気がしました。今思えば、あの時間は自分にとってあり、祖父の弟子であり、私の師との夜、亡くなった祖父の弟子であり、私の師との夜、亡くなった祖父の弟子であり、私の師との夜、亡くなった祖父の弟子であり、私の師との夜、亡くなった祖父の弟子であり、私の師との夜、亡くなった。

くり過ごす時間を持つことはなかなか難しいかも あくなっています。そのような場合はさまざまな 多くなっています。そのような場合はさまざまな 多くなっています。そのような場合はさまざまな まさまではなく葬儀場に安置されることも くり過ごす時間を持つことはなかなか難しいかも しれません。

ています。

でいます。

けれども故人の最期の姿をしっかりと目に焼きています。

に、はなのでいくことでしょう。そのような確信の下に、切な人を亡くした悲しみを乗り越える大きな力となっていくことでしょう。そのような確信の下に、なっていくことでしょう。そのような確信の下に、なっていくことでしょう。そのような確信の下に、なっています。

一寄進者ご芳名

〈樹木葬第4期墓苑の紹介〉

真光寺樹木葬墓苑が開苑してから13年がたちます。本年5月には総会員数が2,000名になりました。皆様のご支援のもと、当初計画しました森の苑、約1,250区画は後1~2年ほどで募集が終了する見込みです。この募集終了に備えまして、第4期樹木葬墓苑の準備を開始しています。場所は森の苑の東側斜面です。

もともと雑木の斜面林ですが、中に入ると鬱蒼とした暗がり

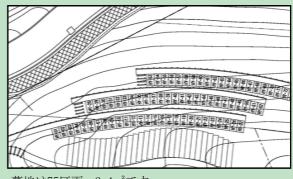
で、樹齢が進みすぎたエノキやコナラ、スダジイなどの里山の木々が所々朽ち果て、場合によっては大枝が落下してくる恐れもあるような状態も見受けられ、管理が課題となっていました。反面、真光寺のシンボルツリーともいえる大山桜もあり、真光寺境内地を舞台とする里山計画にとっては重要な場所です。そこで長期にわたり継続して維持管理が可能な樹木葬墓地として整備、運営することにしました。すでに関連法規に沿って開苑の手続きを進めております。危険な木、伐採をして若返りをした方が良い木などは昨年末から手入れを進め、今は随分明るくなりました。かつての暗がりに光が入ると里山林としてふさわしい草花がすぐに湧いてでてくるのが不思議です。いつか絶滅危惧種もここに繁茂してくれればと期待しています。また、今後の管理が行いやすいように運搬車両が通行できる林道を整備しました。(写真)

この林道はしばしば本誌にも登場する構想、「真光寺大あじさい寺」計画の一部で、道脇の随所にあじさいが植えつけられています。近い将来、境内を周遊できるあじさい回廊として皆様にご利用いただけるように整備を進めていきます。肝心の墓地は敷地の都合上、あまり多く用意することはできません。現在は75区画、大きさは今より小さい2.4㎡で計画しています。少人数向け、現在の森の苑と野花の苑の中間のような企画になるかと思います。詳細が決定しましたら、またご案内いたします。





管理通路: 竹の棒がある箇所は全てあじさいの苗



墓地は75区画、2.4㎡です。

平成三十年 年回表

ニャナセミー 五 Ξ 十 十 セ 三 セ 三 セ 回 周 回 回 回 回回 回回 忌 忌 己 己 忌忌 忌忌 忌 忌 大昭昭昭平平平平平平 正和和和成成成成成成成 五 十 十十四 年 年 年年年年年年年

き皆 様ご 食か寄 堂ら進 ののい 寄進 芳 進き は心 単諸よ お名 建御 立礼 前に 充 て せま

仓 金 仓 参 伍 拾 萬 萬 萬 円 円 円 岩 梅 土 崎 津 橋 由 悦 利 子 寬 子

様 様 様

行 予 定

縁の会施食法要のご案内

縁の会盆供養を行います。七月盆、八月盆に分け、三座施食法要を修行いたします。 厳しい暑さの時期ではございますが近在の寺院僧侶をお迎えし、先祖代々のご供養、故人のご供養、 新盆精霊のご供養、両親縁者など、皆様のご供養を行います。また、今年新盆にあたる精霊には特 別にご供養をいたしますので縁者の方はご参加下さいますようご案内申し上げます。

◇7月7日(土)◇

11時00分 授戒式 月例供養

13時00分 施食法要

◇8月11日(土祝)◇

午前の部

10時30分 受付 11時00分 法要

◇8月11日(土祝)◇ 午後の部

13時00分 受付

13時30分 法要

●申込み事項

- ①出席者のお名前、人数、お弁当の数(おひとり1,000円)
- ②出席の日時
- ③お迎えの有無(午前、午後) お迎えの時間は裏表紙『送迎案内』をご参照ください。
- ④花塔婆供養の有無(1本 2,000円)

花塔婆の申込みは事前に同封のFAX申込用紙または電話にて 申込み下さい。

申込みの際は、故人の戒名または俗名、または〇〇家先祖 代々、塔婆を建てる方の施主名をお知らせください。

- ●供養布施について
- ⑤施食回向布施 随意(3,000円~10,000円程度)
- ⑥新盆施食回向布施 随意(30,000円~50,000円程度)

〈7月又は8月〉

ご自宅での新盆供養または、 棚経(お盆参り)もお伺いいた しますので、ご希望の方はご相 談下さい。

ご自宅へ僧侶が伺いご供養を行 います。希望の日付・時間をお 知らせ下さい。

仏像彫刻教室

《どなたでも参加できます》

日時:毎月第1・第3水曜日

13 時 30 分~ 16 時 30 分

費用: 3,500円/1回参加

場所:真光寺(参加者が3名以上で開催)

仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきま す。初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に 応じたペースで、取り組みます。 ※要予約

坐禅会

《どなたでも参加できます》

日時:毎月第2・第4土曜日 15 時~ 16 時 30 分

初心者の方もやさしくご指導いたしますので気 軽にご参加ください。脚がくめない方は椅子を 使って参加して頂けます。休憩をはさんで2回坐 禅をくみます。終了後は、僧侶と一緒に茶話会も ございます。

※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致しま すので14時30分までにお越し下さい。

精進料理と聖典講読の会《どなたでも参加できます》

日時:7月31日(火) 9月25日(火) 10月30日(火) 11月27日(火)

午前 11 時~午後 2 時 30 分

費用: 3,000 円 昼食付(精進料理)

場所:真光寺

住職による『正法眼蔵随聞記』の解説の後、一 緒に食事をして、午後は坐禅または写経を行いま す。昼食は、真光寺手作り精進料理や手打ちそば をお楽しみいただきます。



事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

山門大施食《檀信徒》

日時:8月9日(木)14時より

恒例の盆施食法要を行います。14時より法話、

15 時より法要を行います。

秋彼岸法要《檀信徒》

日時:9月23日(日)14時より

秋のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予

定しております。

紫陽花の会《どなたでも参加できます》

日時:7月12日(木) | 10月25日(木)

9月27日(木) 11月15日(木)

午前11時より午後2時半頃

費用:1,000円 昼食付

境内や樹木葬墓地の植栽管理にご協力をいただく

会です。花咲く寺を目指しております。是非ご参 加下さい!

※要予約

戒名を考える会 《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時: 9月10日(月)午前11時より午後2時半頃

12月5日(水)

費用:3,000円(昼食付)

定員:20名

戒名を考えることは、人生を振り返ることです。 午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精 進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際に ご自身の戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒 式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、

観音堂にご安置します。

※要予約

※持ち物: 漢和辞典

ご詠歌練習日《どなたでも参加できます》

10 日・24 日 | 10 月 9 日・23 日

11月 13日・27日 8月 28日

9月 11日·25日 12月 11日(忘年会)

時間 5月~9月は19時半・10月~4月は19時より ※ご詠歌は、お釈迦さまの教えを讃え、ご先祖さまをう やまう心をやさしい旋律にのせお唱えするものです。

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座

《どなたでも参加できます》

日時:11月29日(木)~30日(金) 14 時から翌日 13 時 30 分解散

費用:8,000円 1泊3食

場所:真光寺

初心者の方も大歓迎!日本棋院六段の先生に基礎か ら教わり、囲碁をはじめてみませんか?日帰りのご参 加も可能ですのでお問い合わせください。

※要予約



縁の会秋彼岸法要

日時:9月23日(日) 11時より

縁の会合同での春彼岸法要を行います。

昼食(お弁当)のご用意を致しますので、参列申込み

の際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。

欠席の場合でもお塔婆のみのご供養もお受け致します のでお申し付け下さい。

※要予約

七日法要《縁の会会員》

日時:7月7日(土) 11時より授戒式・月例供養、昼食(お弁当)午後は7月盆施食

8月11日(土祝) 盆施食法要・月例供養 午前11時・午後13時半の二座 詳細10ページ参照

9月7日(金) 11 時より授戒式・月例供養、昼食(精進料理)午後は坐禅・写経・写仏

11 時より授戒式・月例供養、昼食(精進料理)午後は坐禅・写経・写仏 10月7日(日)

11月3日(土祝) 11時より縁の会総会・月例供養 ※詳細は9月下旬頃お手紙でご案内致します。

12月7日(金) 11時より授戒式・月例供養、昼食(精進料理)午後は大掃除

※要予約 午前、午後のみの出席もできます。



日程:平成30年10月20日(土)

旅行代金:13,000円

募集人数:35名(最低催行人数20名)

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方(君津発逗子行き) JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方(快速君津行き) JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

【平 日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方(木更津発普通千葉行き) JR内房線「袖ヶ浦駅 | 12時51分着
- ・下り電車の方(千葉発普通君津行き) JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着 (千葉12時18分発)

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発11時35分→袖ヶ浦BT12時27分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630 e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会) satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)